江南小

# 主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子の育成

## ～各教科における思考を促すしかけや授業展開を通して～

（１年計画の１年次）

校長　　笹川　力

### １　研究主題について

本校では、「強い子になろう」を教育目標に掲げ、児童の「生きる力」を育んでいくという理念を共有している。「生きる力」とは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の３つの要素の調和である。

昨年度は３年計画の３年次として、「主体的に課題に向かい　ともに学び合う子の育成」をめざし、主に「発問」と「対話」の深め方の研究に取り組んだ。児童の思考につながる「しかけ」や思考を促すような「発問」を設定することにより、根拠を探ったり、予想とのずれから深く考えたりするなど、主体的に課題に取り組む態度が見られた。また、対話に必然性をもたせるために、ペアで課題解決に取り組ませた結果、間違いへの気付きや自分の考えに対する自信につながり、全体の場でも進んで発言する児童が多くなった。教師が「対話」の目的と視点を明確にするために問い返しをしたことは、児童から多様な考えが引き出され、個々の考えの深まりや広がりにつながった。

いくつかの成果があげられた中で、思考を伴う課題解決に消極的な児童や自分の考えを分かりやすく説明したり正しく書いたりすることが苦手な児童が見られるという課題が出されていた。そのため今年度は、これまでの成果を生かしつつ、主体的に課題に向かうための授業展開と表現意欲を高める活動方法を探っていき、「確かな学力」の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

### ２　研究のねらい

各教科の授業において、主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子を育てるための指導の在り方を授業実践を通して明らかにする。

### ３　研究仮説

各教科の授業において、思考を促すような「しかけ」や授業展開を工夫したり、表現意欲を高める活動方法を探ったりしていくことで、主体的に課題に向かい、自分の考えを表現できる子を育てることができると考える。

### ４　研究内容

(1) 児童が主体的に課題に向かうための工夫

・思考を促すような「しかけ」や「授業展開」の工夫

(2) 自分の考えを表現するための工夫

・自分の考えをもち、表現したいという意欲を高めるための活動の在り方

## ５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究授業研究等

| 月 | 日 | 授業研究・教材研究等 |
|---|---|---|
| ９ | ２１ | 第１回授業研究（１学年　算数）<br>題材名　「ながさくらべ」<br>１年１組　授業者　教諭　三上　育子 |
| １１ | １６ | 第２回授業研究（５学年　算数）<br>題材名　「単位量あたりの大きさ」<br>５年１組　授業者　教諭　小坂　みどり |
| １１ | ２５ | 小・中ジョイントスクール推進事業　授業公開（全学年） |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内　　容　　等 |
|---|---|---|
| ５ | ２６ | 児童理解研修会「のびゆく大いちょう」についての共通理解 |
| ６ | ２２ | １人１台端末（Chromebook）の活用について<br>講師　葛西　優作　（本校　視聴覚主任） |
| ７ | １３ | 算数における問題解決的な授業展開について<br>講師　峯　明紀　（本校　拠点校指導教員） |
| ８ | ２４ | 問題解決的な学習を取り入れた授業づくり<br>講師　教育指導課　主任指導主事　福田　秀貴 |
| １０ | １９ | 救命救急法講習会<br>講師　八戸消防署　根城分遣所　職員 |
| ２ | ２２ | CRT 学力テスト分析（各学年） |

## ６　研究の成果

(1) 教材（問題）の提示の仕方や発問を工夫したり、課題解決の見通しをもたせたりした。その成果として、自力で課題に取り組む、分からないことを質問する、教師や友達の説明を聞いて理解するなど、主体的に課題へ向かう態度が向上した。

(2) 一人一人に教材を配付したり、ワークシートを工夫したりすることで、自分の考えを進んで友達に伝えようとする児童が増えた。

(3) 日常的に書く活動を取り入れ、自分の言葉で考えを書かせることで、進んで発表したり、友達の発言に感想や質問を述べたりする児童が増え、表現力の向上につながった。

## ７　研究の課題

(1) 友達や全体で考えを伝え合った後、児童自らが自分の考えと比較しながらよりよい考えに気づくための児童への働きかけの工夫について探っていく必要がある。

(2) 学力・学習意欲の差が大きくなってきているため、個人差を考慮した学習指導の在り方を探っていく必要がある。

（記入者　池田　美幸）